

陸上競技大会におけるメディカルチェックの報告

・令和3年7月9日(金)～11日(日) 第76回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会(むつ市)

<目的>

平成27年より県内の陸上競技大会(主に高校生中心)において、疲労骨折の発生状況やスポーツ貧血、女性アスリートの3主徴などを中心に、その発生状況の実態調査を施行している。さらに本メディカルチェックでは、その場で調査結果をみながら個別に説明しながら障害に関する情報を提供するとともに、必要に応じて病院受診を促すことを目的としている。

<対象>

同競技大会への出場選手のうち同意が得られた男子98名、女子57名(高校生は男子90名、女子49名) コロナ前の令和元年参加者は男子156名、女子82名(高校生は男子138名、女子64名)であり、参加者数は減少していた。

<調査方法>

整形外科医、産婦人科医、理学療法士、スポーツ栄養士が中心となり、アンケート調査(疲労骨折の既往、月経周期・月経困難症、栄養摂取状況)、簡易ヘモグロビン(Hb)検査(Pronto-7; マシモ)、体組成検査を測定し、その場で担当者が個別面談を施行した。貧血が疑われる選手や月経に関する症状がある選手は希望に応じて医療機関へ紹介した。

例年施行してきた身体所見やDEXA法による骨密度検査は感染対策として実施しなかった。

<結果抜粋(高校生)>

① アンケート調査

- ・疲労骨折既往あり：男子15名(16.7%)、女子9名(18.4%)(2か所以上の既往6名)
部位は腰椎、下腿、足部に多く認め、報告されている陸上選手での好発部位と一致
- ・月経周期異常：原発性・続発性無月経0名
月経困難症・月経前症候群：7名(14.3%)の希望者に婦人科への紹介状を作成
- ・サプリメント摂取あり
 - ✓男子25名(28%)：プロテイン、鉄剤、亜鉛など
 - ✓女子8名(16%)：鉄剤、プロテインなど

② Hb検査：陸連の基準に準じて男子Hb<14.0、女子Hb<12.0 g/dlを貧血疑いとした

- ・男子34名(37.8%)：Hb<13の選手6名含む
- ・女子15名(30.6%)：Hb<10の選手3名含む ⇒医療機関への紹介状作成
- ・貧血疑いの49名のうち、10名は12～15歳に貧血を指摘されたことがあり8名は治療歴があった。
- ・貧血を指摘されたことがない39名中5名は鉄剤のサプリメントを摂取していた。
(自覚症状があつて摂取しているのか、来年度以降詳細を確認)

<まとめ>

COVID-19の影響により2年ぶりの開催となった。基本的な感染対策として、ディスタンスの確保、アルコール消毒、パーテーション設置を行った。また骨密度検査とタイトネス評価は実施しなかった。検査項目が減り参加人数も減少したが、COVID-19の感染対策を行いながら再開できたことに意義があったと考えている。本メディカルチェックは継続が重要であり、来年度以降の開催に向け参考としていきたい。

(文責 藤田有紀)